

## 第3回南区まちづくり懇談会 会議要旨

1 開催日時 令和元年（2019年）12月19日（木） 午後6時30分～8時30分

2 開催場所 南区役所本館4階講堂

### 3 出席者

(1) 委員（15人中11人出席）

松田座長、田丸副座長、沖本委員、越智委員、門委員、加藤委員、神出委員、角田委員、高橋委員、平岡委員、丸山委員

(2) 南区役所

南区長、副区長、厚生部長、建設部長、区政調整課長、地域起こし推進課長、地域起こし推進課職員

### 4 議題

(1) 南区のまちづくりに向けたアクションプラン（案）について

5 公開・非公開の別 公開

### 6 傍聴者

(1) 一般傍聴者 2名

(2) 傍聴者（報道関係） 0名

### 7 会議資料

(1) 議事資料

議事資料1 南区のまちづくりに向けたアクションプラン（案）

(2) 参考資料

参考資料1 「南区のまちづくりの方向性」について

### 8 議事内容

(1) 南区のまちづくりに向けたアクションプラン（案）について

議事資料1及び参考資料1により、地域起こし推進課長から説明を行った。

### 9 発言の要旨

【まちづくりの方向性①の事務局説明】

松田座長

委員からの補足説明やこういうところが強く言いたいなど何かあるか。

神出委員

地域で取り組む国内外からの来訪者へのもてなしというところで、宇品に客船が着いたときに、皆さんバスで中央に行かれるのが、すごくもったいない気がする。せっかく外国の方がこの南区の宇品というところに足を踏み入れたのに、皆さんバスに乗って行かれ、中区かどこかあちらのほうで買い物されるのだらうと思ひ、とてももったいない気がする。何とか南区で買い物をしてもらうように南区の魅力ある店を紹介できるようパンフレットなどに盛り込むような機会があればいいなと思ふ。

松田座長

余談だが、私は博物館の館長をしており、先日、文化庁が主催する館長研修で外国人観光客対応という講座を受けて、今四つのことが外国人観光客から求められていると教わった。

簡単に御紹介すると、1番目は多言語化で、全てが英語圏の人ではないから、中国語とかフランス語とかスペイン語が必要になる。それから2番目が、今、スマートフォンを持ち歩いて観光される方が多いので、Wi-Fiという無料でインターネットにつながる環境を広めてほしいというものだ。3番目が、船から降りられる方も両替に困っているので、キャッシュレスで買い物やサービスが受けられるというのもの。4番目が非常にわかりやすいが、トイレの洋式化だ。観光地の場合は、ある程度整っているが、実はずちの博物館はまだ和式トイレと洋式トイレが両方ある。かなり洋式化が進んでいるが、まだまだ和式トイレが多い。使い方がわからないので出かけたくないというような方もいらっしゃるし、設備が新しい施設にしか行きたくないといった声がある。その四つが外国人観光客が日本へ望む対応と教わった。

ほかに御提案の委員から補足説明とか、あるいはこういう視点もぜひ入れてほしいというようなことがあれば、どうぞ。

ほかになければ、2項目目に進もうと思ふ。

## 【まちづくりの方向性②の説明】

松田座長

ただいまの2項目目について、たくさんの方から御提案があるが、何か補足説明があれば、お願いしたい。

神出委員

SNS等の活用した町内会等の地域活動の活性化というところで補足説明をしたい。

町内会でライングループをつくり、集まって会議を開催しなくてもラインで決定、共有するという内容だ。私は今、町内会で副会長させていただいているが、うちの町内会は、子ども会が消滅しているので、このたびクリスマス会を町内会でやってみようということになり、若い方に声をかけた。それは役員をしているとかを関係なく、ちょっと手伝ってくれないかというような言い方で声をかけていった。そうすると、皆さんものすごい力を持って

て、あと仕事でそういう経験がある方が多く、いろいろと意見が出て、ライングループをつくろうということになり、若いも若きも総勢12人ぐらいで、今年22日のクリスマス会に向けて、用意している。全部ラインで物事が進んで顔を合わせて集まったのは1回だけだ。そうすると、若い人たちが積極的に加わられて、とても今、いい方向に進んでおり、町内会へ関わってくれている。それと若い人たちは小学生から幼稚園児の子どもさんもいらっしゃる保護者の方が多く、とても積極的に企画やいろんなアイデアを出してくれる。

若い人たちが町内会に入ってくれないとか、子ども会が無いという課題があるが、こういうふうにしたら若い人たちが積極的に加わってくれるということを今回経験させていただいた。

携帯を持ってない方もいると思うが、今回はラインというものを使って、こういうことができるというのを経験して、私自身も驚いている。

松田座長

ありがとうございました。ちなみに、ここにいらっしゃる全員の方がスマートフォンを持っているとかラインやSNSをやられているわけではないと思う。例えばガラケーの方はラインが使えないとか、SNSと言われても何のことか分からないという方もいると思う。

加藤委員

私はガラケーで、高齢者の人はやっぱり普段使わないとなかなか使いにくい面もあり、ついていけなくなると思う。

松田座長

そういう話はたくさん伺うが、一方で、お孫さんが使うから無理やり覚えるというようなことも将来的にあると思う。

神出委員

実は町内会長はラインを知らなかったが、一緒にみんなでやっていったら仲間に入ってこられた。80歳前の方だが、ちゃんとグループの中に入ってやられており、絶対これがいいということではないが、そういうふうにしたら若い人たちが参加してこられるんじゃないかなというのが感想だ。

松田座長

全ての人が今、使える状態ではないが、今から5年間かけてやっていくような事業を検討しているので、かなりの方が今後、切り替えていくことが予想される。みんな知っているという前提での話ではないが、これからどんどん有効に使いましようという視点でのお話ということだ。

#### 加藤委員

同じように、町内会だが、会長さんが毎年交代する。今度、餅つき大会を土曜日にやるが、前にやっていた会長の中に元気がいい人がいれば手伝いをお願いするとか、そういう方法をやっている。それが、いいかどうか今は別として、やはりある程度関心を持っていただくということが必要ではないかと思う。

#### 門委員

まだ私自身未消化だが、今読んでいる「ネオサピエンス」という本で、IT関連の技術が発展すれば人と人が接触しなくて暮らしていけるそうだ。そして、人と話をしなくてもいいという人間が、3割に達しているという精神科医の見解がある。若い人らはこういうやり方が通用するのかもしれないがやっぱり考えないといけない。まだ、難しく全部読んでないが、確かに人と接触しないし、結婚もしない、そういうふうな人がどんどん増えてくる。そういう時代が将来来ることを見越してある程度考えないといけない。5年ではそんなに変わらないと思うが、これを見ながら考えるとちょっと心配だ。

#### 松田座長

当初の私の挨拶でオールアンドニューという話をした。古いという響きではなくて、良いものを続けていこうということで、今回のこの御提案の中に声かけとか挨拶をちゃんとしましょうということが挙がっている。これはオールドのいいところをつないでいき、IT時代になっても、やはり顔と顔が見えて「おはよう」とか、「危ないから逃げよう」だとか言わないといけないことがある。一方で、ラインが今コミュニケーションツールの新しいものということだが、テレビコマーシャルでよく紹介されているAIスピーカーなどと呼ばれる筒形の装置に話しかけると、言葉が返ってきて、スマートフォンを使わなくても、自分の子どもが今どこにいるかと聞いたらどこにいると答えてくれるし、何々を買ってと言ったらネットで注文してくれるようなものが、これから5年以内にもものすごい率で普及していくそうだ。

我が家にはないが、そういう時代が来ているので、必ずしもスマートフォンが使えなくても、しゃべればテレビがついたり電気が消えるという時代も来ているので、難しく考えなくて、少しずつトレーニングをしていくということも必要だと思う。一方で、声かけとか挨拶をする中で、この人見たことないということもあると思うので、そんなこともやはり必要なのではないかと思う。良いものと新しいものをうまく融合していくということが必要なのではないかなと思う。

#### 区長

フェーストゥフェースでつながるというのが、我々の世代で普通だったと思うが、我が家の娘たちを見てみると、やはりラインなどで人と人とはつながってはいるが、時にはオンラインゲームという形でしゃべりながら同じ画面を見るが、場所はそれぞれ日本全国ばらばらで同じゲームをやっているのを見る。今からの若い人たちというのは、そういうコミュニケ

ーションの取り方というのが我々の世代とはやはり違うのかなと思う。

神出委員が言ったように、今の若い人たちのコミュニティツールとして、ラインというものがたくさん使われてきており、我々でいう電話と同じような感覚なのかなと思っている。

そういうふうに見ていけば、決して人と人のつながりが切れているわけでもないし、若い人たちもつながりは求めていると思っている。

神出委員

そうやってラインがつながって知らなかった人たちと今度、このクリスマス会が終わったら打ち上げをしようということになっている。皆さんとラインを通して気持ちがつながっている。打ち上げをして楽しもうということまで発展するという事は、町内の顔見知りが増えるということになり、そういう意味でも使い方次第だなということを感じている。

松田座長

ITには光と影と言われていることがあり、先般大阪の小学生が関東のほうで誘拐されたということもあり、そのSNSだけでつながっていると犯罪に利用される可能性もあるので、やはり大人の目とかセキュリティも必要だと思う。

丸山委員

僕はラインもしているし、SNSもやったことはあるし、オンラインゲームもしている。例えば、嫌な顔してにっこりスタンプなどもある。若者はすぐ集まって、すごいエネルギーを出したり交流したりとかもある。今回の災害のときも、不安をあおるような情報とかもあり、しっかりしたSNSに対する取り締まりみたいなものが今後、大事なことになるのではないかなと思うし、フェーストゥフェースも大事だと思う。

松田座長

ありがとうございました。ちょっと今、IT系の話が続いているが、元々はコミュニケーションとつながりとかあるいは助け合いといった安全安心なまちづくりに関しての話だ。災害や犯罪もあるし、交通事故もある。たくさんの不安要素があるが、自分たちの力で何とかしていこうというのが基本にある。

ほかに御意見があればどうぞ。

田丸副座長

地域づくりの繋ぎ手同士が顔を合わせてまちづくりの課題を協議するネットワークの構築で、そのネットワークという言葉に思いを込めて補足する。いろんな組織を担っている方は、それぞれの組織をどう引き継いでいこうとか、それぞれの組織でいろいろ苦勞されながら担っていると思う。その担い手たちが出会うという意味のネットワークと、先ほど神出委員がおっしゃったように、組織というにはもうちょっと緩やかにいろんなところから入っていけるプラットフォームのような緩やかなつながりという意味のネットワークと二つのネ

ネットワークが今の地域をつくっていくときにあったらいいなと思う。特に後者のほう、プラットフォーム型ネットワークとは、いつ来てもどこから初めても、できることからやるといふ少し緩やかなものを、それぞれの場所と人間とで何かつくっていけないかなと考えている。例えば子育てするなら、行政組織が幾つかの課をまたいだ上で、子育て支援の施策について協議して施策に反映していけるようなネットワークと、子育て支援者同士を繋ぎ合わせるようなネットワーク、という二つの思いを込めている。

松田座長

ここでプラットフォームという単語があった。実は組織というのは縦割りで、縦関係で意思決定をしていく。水平組織はいろんな思いを持った人が平等に、テーブルに水平に集まって自由に意見を交換して役割分担して担っていくもので、それがプラットフォーム型というものだ。

ネットワークの意味も今はいろいろあり、後継者の育成、予防ネットワーク、違う分野の人との意見交換に関するというようなこともあるので、縦の糸の昭和世代、横の糸の平成世代、令和の時代は二つの融合というようなことをちょっと考えながら御検討いただければと思う。

ほかに御意見がなければ、3項目目に進もうと思う。

#### 【まちづくりの方向性③の事務局説明】

松田座長

3項目目の「歴史を生かす、文化やスポーツを楽しむ地域に愛着を持って心豊かに暮らせるまちづくり」ということで、こちらもかなりたくさん出ているが、補足説明があれば、お願いしたい。

丸山委員

ニュースポーツの普及と参加促進ということについてだが、これは5年前から南区の親善大会としてフラバールバレーボールというのを取り入れてやっている。おむすびみたいなボールでバレーをワンバウンドして行うから、上手い人と下手な人の格差がぐんと縮まるというニュースポーツだ。南区が一番に取り入れて、今は3区くらいでやっており、まだまだ普及とはいえないが、そういうニュースポーツを取り入れていこうというときに、大きい大会があってこんなニュースポーツがあるといったらみんな飛びついてくるのではないかという提案だ。例えば広島みなとフェスタで大会をやって、会場の飲食ブースで使える食券を景品にするなど、お互いに盛り上がれば面白いなと思って提案させていただいた。

松田座長

今、高齢者でも安心して参加できる新しいスポーツがいろいろ開発されているし、障がい者の方と一緒に新しいスポーツを楽しむみたいなこともPRされている。

## 門委員

いろんな意見があるが、障がい者に対応をするようなものがほとんどないと気がついた。全国でも老人対策でという事業が多いが、障がい者の対応というのはほとんど出てこない。ちょっと不思議な気がする。

## 松田座長

実は基本計画の素案に障がい者の取り組みがまとめて書いてある。区ごとに障がい者へ取り組むというメニューまで要請があるかというのは分からないが、ただ、身近に障がい者の方がいらっしゃれば、一緒に町に出ようよとか、一緒に何かしようよとかいうようなコミュニケーションの延長線上としてやっていく。あるいはずっと障がい者じゃなくて、足の骨を折った2～3か月間は松葉づえを使わなきゃいけないとかもあり、いつ自分がそうなるかもしれないということも含めて、バリアフリーだとかユニバーサルデザインということが今、求められている。

そういったものがあれば、追加して、この3本目の柱がいいのか、一つ前の柱がいいのかは別だが追加していくということを門委員が思われれば、ぜひ提案をしていただければ、南区は他の区より進んで、ニュースポーツもやるし、障がい者の方と一緒に社会をつくっていくのだといったことも出していける。

## 門委員

出島には特別支援学校がある。彼らが年を取ったときに、一定の収入がなかったら大変なことになる。やはり働く場をつくって、稼げるような形がいるのではないかと思う。

## 副区長

私、以前の職場で障害自立支援課長として、障がい者の福祉に携わっていた。今、各区とも区レベルでの障がい者団体はあるが、区で活動されているというのは、年に数回勉強会をやるという程度で、そんなに頻繁には行われていない。障害には多様な種類があり、身体の方、知的の方、精神の方、発達障害の方、様々な障害対応があり、一括りに課題を解決しようとしてもなかなか回らない部分があり、市として施策で対応しているというのが現状だ。

先ほど、門委員からあった就労支援だが、こちらのほうも、その人の能力に応じた仕事の提供や、就労の工面というようなところも市レベルでやっている。

地域のレベルだと、各企業に雇用を創出してもらうことも行政としてはお願いをしている状況だ。

あと、就労まで至らない障害の方が多い。これは例えば高齢者のみの世帯と同様などころがあり、今、8050問題として、障害をお持ちの方を保護者がずっと見てきているが、保護者の高齢化で子どもを見られないというような現状がある。この辺もやはり地域の手助けがあれば地域で暮らしていけるといふところがあると思う。もちろん公共のサービスも充実しているが、地域の手助けが一つあれば非常に暮らしやすい状況になる。このアクションプランで言うと、2本目の柱の「人と人のつながりを大切にしてみんなが支え合う安全・安心

なまちづくり」の中で、例えば丸山委員の世代ごとの意見を吸い上げるという意見で、世代という中でも高齢者とか子どもとか様々な立場の方が考えられる。また、子育て支援、防災防災などの各分野の他に、ハンディキャップをお持ちの方という分野を一つ入れてもいい。いろんな場面で助け合い、あるいは支え合いをするという中の一つに加えていただければいいと思う。

#### 角田委員

このニュースポーツの普及というところで、私の地区の荒神町小学校は、以前は南区の子ども会の大会にも出していたが、バレーボールとかソフトボールなどをやっていたが、チームの人数がそろわなくなった。そういう小学校のために縄跳びも入れようとか、いろんな新しいゲームみたいなものを取り入れていただいたが、それでもどんどん減っていき、そういう大会に出場できなくなった。

マツダスタジアム周辺にマンションができ、今回、子どもたちがちょっと増えたので、南区の活動に参加させてもらおうかと言っているの、こういうふうにニュースポーツを普及させてもらって、少人数でもできるものであったり、1年生から6年生まで混じってでもできるようなスポーツを考えてもらったら、人数の少ない学校でもできるのではないかなと思、賛成する。

#### 松田座長

賛成意見ということでありがとうございます。

#### 田丸委員

障害のある子どもを育てる御家族が、保育所だけじゃない色々な子育ての地域拠点などでも苦しい胸の内を明かされることもあり、まずそういう人の困難さとか子どもたちのことを知り、そういう人たちと知り合ったりする機会をどんどん多くの人たちが共有できたらいいと思う。

障害を持つ子どもたちの大きな祭りが南区であり、そこに大学生ボランティア来てほしいという依頼があった。そういった情報をもっと発信したり共有できたりしたらいいと思う。

もう1点は、今言われた多くの人と一緒に楽しめる間口の広い活動で、そういう人と知り合う仕掛けをつくるときに、スポーツだったり、一緒に歌ったり踊ったりなど何か楽しいという要素をつくってほしいと思うので、地域でやられている様々な伝統行事も間口を考え直してほしいと思った。

#### 丸山委員

先ほどニュースポーツの普及の話を受け、去年まで私は子ども会の会長をしていた関係で、人数が集まる学校もあれば集まらない学校もあって、ドッジボールに一本化すると、今度は低学年の子がボールを取るのが怖いかいいろいろあったが、ドッジビーだったら顔に当たっても痛くないとか、いろいろ議論はしているので、多分大丈夫だと思う。



それと、さっき障がい者の話で、私は演奏をしていて、体育会系の仕事はしているが本当は文化系の人間なので、たまに障がい者作業所とか老人ホームで演奏を行っている。身近に音楽が聞けるような会というのが、ふれあいを持つ手法になる。時間を割いて用意して音を聞かせてくれてありがとうと言われて、その後に作業所でつくられたクッキーや服を買ったりして、何かつながりを感じた。ちょうど先日あったばかりなので、思い出して発言させていただいた。

松田座長

たくさんの委員から障がい者に対する意思があり、本庁での取り組みももちろんあるが、立地条件を生かした南区の中での取り組み、例えば特別支援学校があるとか、あるいは御近所でそういうところまで目が行き届くようになったから、新しいことに挑戦することでもあろうかと思う。この辺はもうちょっと話を伺って項目出しするかどうか、区として何か独自に取り組めるようなものを、御検討いただきたいと思う。

ほかに御意見がなければ、4項目目に進もうと思う。

#### 【まちづくりの方向性④の事務局説明】

松田座長

ここは提案が一つしかない。ただ一方でたくさんの既存事業があるので、既存事業を継続的に行うのであれば、ここは少なくとも仕方がないということもあると思う。事務局としては増やしたいという思いはあるか。

地域起こし推進課長

できれば他の項目のようにたくさん意見をいただきたい。特に似島はまちづくりの方向性でも明記しているので、似島に特化した御意見や提案等があればいただきたい。

松田座長

日本では屋外で食事をするのに、特定のところでないと火を使ってはいけないとか色んな法制限があるが、海外はカセットコンロならいいとか、木を焼かなければいいとか屋外で食事をするBBQ文化が普通になっているので、いろいろと違いがあるそうだ。ベンチの数もちゃんと学者が調べており、日本はベンチの数が少な過ぎるそうだ。

私は1回しか行ったことないが、パリに行くと河川沿いや公園にもものすごい数のベンチがあり、狭いところだと6メートル間隔おきにあるそうだ。そのぐらいたくさんの人が座ったり、日光浴をしたいという欧米の文化があるが、日本はものすごく少ないので、高齢者がちょっと休もうと思っても休めない。あるいは子ども連れのお母さんが何かしたいときに座ってできないので、立ったままでしなければいけないということがあると聞いたことがある。

自然の魅力を感じられるという山があり、島があるというのが南区だけのようだ。そういうところを生かして、何か御提案はないか。

またこの場で思いつかないこともあるので、最終の懇談会までにまた意見を寄せていただくとか持ち帰って御自身の組織で検討といったことも事務局としては可能か。

地域起こし推進課長

それぞれの団体において持ち帰っていただいて、新たなアイデアが出るかもしれないので、追加でいただいた御意見を反映させることはできる。

松田座長

この4本目の柱は、自然の魅力を活用ということで、個人的にちょっと気になるのは、水質とか川の河床の泥が白っぽくなるといいのかなと思う。とりわけ猿猴川と京橋川は河床が汚いので有名で、少しまとまった放流をしていただくといいが、漁業権の問題があって、なかなか放流できないということもあるようだ。

いずれは、駅前に小さいクルーズが来て、駅前からも世界遺産航路として宮島まで行けるというような構想もあると聞いている。船に乗ってみる景色も見上げる桜だけではなく、水もきれいで川底もきれいで魚が見えるというのもいいかなと個人的には思うが、これも本庁事業だとは思う。

神出委員

今話題になっている旧陸軍被服支廠について、これは南区の戦争の遺産として存在している。今のところ県は残すとか残さないとかいろいろあるが、その辺りはどういうふうになっているのか。

副区長

私の以前の職場で平和推進課の被爆体験継承担当課長をやっており、被爆建物の保存というのが市として大事だということをずっと言い続けている。被爆からもう74年が過ぎて、被爆者が少なくなっている時代に入ってくる中で、物言わぬ証人としての被爆建物の価値、旧陸軍被服支廠の存在というのは非常に高いという認識で広島市はいる。市長も先日の記者会見で4棟全てを残すべきということも言っており、市として取り組んでいく内容になる。

ただ旧陸軍被服支廠については、報道でもあったように3棟が県の所有、1棟が国の所有ということで、市は残してほしいということは申し上げるが、県や国が最終的に判断することということになる。

被爆建物を補修するときには補助金が出るようになっている。それぞれが被爆者体験の継承・伝承を図るという立場で物事を考えてほしいというのが市の立場でもあり、旧陸軍被服支廠を抱える南区も同じ気持ちである。

区長

この件については、今から広島県が意見募集をされるそうなので、ぜひ、御意見を出して下さい。

#### 神出委員

私は青少年健全育成連絡協議会にも関わっており、子どもたちを連れて中に入ることができたが、ものすごい威圧感があり圧倒された。ぜひああいうものは残しておいて、子どもたちに実際に体験させて教えるということが大事だと思う。

#### 加藤委員

私は黄金山山頂エリアの再整備を行っている活動に参加している。北側のほうに張出しデッキをつくって眺めがいいようにした。また、場所を変えて反対側に行けば、瀬戸内海の多島美が楽しめるという状況になっている。

最終段階に入っているので、ぜひ皆さん方に足を運んでいただいて、また、ここをこうしたらいいのではないかとということを区のほうへ言っていただければ、すぐではないが意見を尊重していただけるのではないかと思う。

#### 区長

黄金山山頂エリアの再整備について、今、加藤委員から出た意見は、現在の取組項目の中に入ってなかった。これは改めて加えさせていただこうと思う。この再整備はまだ継続するので、主な取組の中に掲載をさせていただく。

#### 松田座長

それでは、ほかに御意見はあるか。

無ければ私から発言するが、2本目の柱のところでもたくさんの事業提案があり、例えば二つ目の書き出しが「多様な世代を」ということだが、次の書き出しが「様々な世代」となっている。例えばこういう相手が同じような活動というのは、グルーピングができるのかなというような気がする。

それから、四つ目の項目の最後が「ネットワークの構築」になっており、下から2番目の最後も「ネットワークの構築」になっている。こういったところも同じようなものとして括ってもいいかなと思う。ただ数を絞ることが目的ではなく、括っていけば幅広い活動ができる組織体ができるのではないかなという感じを受けた。

それから、3本目の柱で、上から三つ目のマップづくりの御意見を田丸副座長からいただいた。このマップというのは手段であり、それを観光や福祉などの何に使うのかという目的によってマップに載せるものが変わっていき、福祉ならバリアフリートイレがどこにあるのかを示すものになる。これは高齢者等への地域の魅力の発信強化にも使えるし、魅力資源を載せて東京や大阪に配ればIターンを希望する人に馴染みやすい環境づくりにも使えるし、各地域における伝統行事等を通じた地域間交流の促進にもマップが使える。一つのスタートから他の活動にもつながっていくというようなことがあるので、少し事務局のほうで工夫していただいたり、あるいは独立したままでもいいが、何々の派生としてこういうのをやったらどうかというような捉え方もあるのではないかと感じた。

それから、先ほどから障がい者のお話が出て、私のほうからもうちょっと議論しましょう

という話をした。全市的な取り組みでもう既に着手して、例えば被爆建物の保存についても基本計画の素案のほうには書いてある。けども、具体的に旧陸軍被服支廠をどうするかというところまで書いてない。特に、市の持ち物ではないので、相手があることだから、書きにくいところがあると思う。皆さんの活動の中で、地域資源を例えばどこかの企業が持っていて、企業も持て余しているなら、次に一緒に何かしましょうとか、そういった御提案はひよっとしたらできるかもしれない。

障がい者の特別支援学校があるから、何かそこを拠点にとか、車椅子で町へ出よう運動というのを今から30何年前に私もやっていた。そういうことを今の時代ではもっと進んだことができる。足が悪い人でも電動カートを使えば自分で動けるようになった時代だ。ユニバーサルな視点での新しいスポーツでいえば、広島はニュースポーツのエスキーテニス発祥の地ということがあり、そういった面で何か新しいことに挑戦していきたい。本庁の事業に期待するのではなくて、南区がフロンティアになって頑張る見本を見せてやるという気概で取り組んでいき、お金が心配であれば、企業の社会貢献だとかクラウドファンディングでお金を集められる時代になりつつある。

もし、5年で難しければ、次の5年ということで、6年目から10年目までの期限を切ってもいいし、発言は出しておいて、熟度に応じてそれを活動化していくといったことも必要ではないかと思う。

新年互礼会が各組織でおありだと思うので、こういう計画の改定は10年に1回しかなく、10年に1回のときに盛り込んでいただく種を皆さん持ち帰って少し御議論いただいて、次回の懇談会の直前ではなくて、少し早目に事務局のほうへお出しただけしたら、事務局がうまくまとめてくださるのではないかと思う。ここにいる人間は意見を出したというだけでなく、やる側でもあるので、自分たちがやることをこのアクションプランに盛り込んでいくという責任がある。そういう視点で今、出ているものを強化するでもいいし、抜けているようなものがあると思うものについては提案するといったこともしていただければと思う。

それでは、組織に持ち帰って少し御検討いただくということで、この場はよろしいか。時間も迫ってきた。本日の審議はここまでにしたいと思う。